

研究課題名	造血幹細胞移植後合併症における補体関与の探索
研究の意義・目的	同種造血幹細胞移植後合併症の中で、血栓性微小血管症を代表として補体が関与していることが報告されています。この研究ではその他の同種造血幹細胞移植後合併症の一部に補体が関与する可能性を調査することを目的とします。補体が関与していることが判明した場合、将来的に補体阻害薬が治療となりうる可能性があります。 本研究は大阪公立大学が中心となって行う研究です。
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2025年3月31日（西暦）
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2012年12月5日～2021年12月31日に大阪公立大学医学部附属病院、血液内科・造血細胞移植科で同種造血幹細胞移植を受けた16歳以上の患者
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目および過去にご協力いただいた研究（「同種造血幹細胞移植研究における検体の保存と研究利用（OCU15-1）」「同種造血幹細胞移植後の肝合併症の診断ならびに予後予測における非侵襲的門脈圧測定検査の意義に関する前方視的検討（OCU14-1）」）でご提供いただいた血液保存検体を本研究に使用させていただきます。 試料：【血液、障害臓器から採取された病理組織】 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT画像、移植情報】
試料・情報の他機関への提供	この研究では奈良県立医科大学医学部附属病院輸血部、国立循環器病研究センター、日本補体学会事務局（和歌山県立医科大学）、酪農学園大学へ頂いた試料・情報を提供します。病理組織への補体沈着の検査や、血液中の補体活性値の測定を行います。その際は、特定の個人を識別できない形で提供します。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学（研究責任者：中前博久）、奈良県立医科大学輸血部（研究責任者：松本雅則）、日本補体学会 和歌山県立医科大学 分子遺伝学講座（研究責任者：井上徳光）、酪農学園大学（研究責任者：大谷克城）、国立循環器病研究センター病理部（研究責任者：畠山金太）で行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科・血液腫瘍制御学・研究代表者 中前博久
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究は日本補体学会の研究費を使用して行われる予定です。補体学会は複数の企業から資金提供を受けていますが、特定の企業から提供された資金を本研究に用いる予定はありません。
連絡先	国立循環器病研究センター 病理部 （担当者氏名）畠山金太 電話番号：(06) 6170 - 1070